

NPO 法人 もやいで的活動を通して

社会福祉学部社会福祉学科 2年 板倉 加奈

活動先：NPO 法人 もやい

クラス：村上 徹也 先生

1. この夏の活動

私が参加したもやいで行われている様々なイベント、活動を簡単に振り返りたいと思う。最初に参加したのは「流しそうめん」である。もやいの利用者や会員、近所の人に参加したものである。私と他のメンバーは流しそうめんの準備の以外にも、お稲荷さんなど食事の支度、子どもたちを対象にしたゲームで子どもたちの様子を見ているといったことをした。次に参加したのは「ガーゼ染め」である。ガーゼに輪ゴムや割り箸、小さな入れ物とキャップなどをつけて、色液の中に入れガーゼを好きなように染める。参加者は自分の染めたガーゼを持ち帰ることができ、私も一つ頂いた。終わった後も私と他のメンバーでたくさんガーゼを染めた。これらのガーゼはもやいがフリーマーケットで売り、大切な資金源になる。次は個人講座である。もやいはたくさんの講座を行っており、夏休みは週4回行われていた。子どもを対象にした講座が多いが大人が参加しても楽しめ、学びになるものもあった。その講座の一つを学生が教える立場になって行った。私はスライム作りの講座を行った。さらに、もやいの事業の一つであるデイサービスとヘルパー同行も行った。デイサービスは利用者の皆さんがもやいに集まり、お話したり、ご飯を食べたり、創作活動をしていた。私はあまり利用者さんと話すことができず、食事の支度や創作活動の準備などで少し悔いが残った。ヘルパー同行は、知的障害の方を別の施設に車で送る、足の不自由な方、一人暮らしをされてる方のご自宅で家事の手伝いなど、一日三軒回ったがどの家も違う事情を抱えていた。私がこの夏最後に参加したのは「夜空を観る会」である。この夜空を観る会はもやいの敷地内に望遠鏡を置き、月や星を観察する会である。私と他のメンバーは毎年この会に協力している「ふくろうの会」の方と連絡をとり、日付の確認、何時から始めるか、どんなものが見えるのか、もし雨が降った場合はどうするのかなど、企画の段階から参加したイベントであった。

2. 夏の活動を通して私が気づき学んだこと

私が学んだことで一番大きいのは企画することの大変さである。今までは誰かが企画したことそのまま乗っかるだけだった。しかし、この夏は企画する側に立ちその大変さを知った。まず、流しそうめんのゲーム、個人講座のスライムがいい例である。この二つは私に様々な人の立場を考えるとということ気づかせてくれた。どのくらいのゲームならできるのか、それはどの歳の子でも大丈夫か、危険はないのか、この条件で行えるのかなど、普段考えないことだけにとっても神経を使い悩んだのである。そして、企画は考えるだけでは

なく本当にできるのかななどのシミュレーションも大切だと個人講座で気づいた。大きな失敗はなく、子どもたちも楽しそうにしてくれ概ね満足していたが、後悔が残った点もある。スライム作りで子どもたちの質問に答えられない所があった際、「いろいろ試してみよう」と誤魔化してしまったのである。結果は子どもたちが自分の思い思いのスライムを作り楽しそうだったが、質問に答えられる程度には自分も作ったり、勉強しておくべきだったと思っている。夜空を観る会ではまず、ふくろうの会の方にアポを取るところから行い、全く経験がなく緊張した。もちろん、ふくろうの会の方に協力していただいた背景には、もやいが築いてきた実績があるのは分かっているが、自分たちで最初から始めて慣れないことばかりして成功した充実感はとても大きいものだった。

私が気づいたことで大きいのはNPO 法人の存在と地域のニーズの多さだ。ヘルパー同行で行った家はすべて事情が違う。知多半島の阿久比町とその近隣の決して広いとは言えない地域に様々なニーズを抱えた多くの人々が暮らしているのである。そして、少しでもそのニーズを満たすために活動するのがNPO。講義でNPOは行政の手の届かない所のニーズを補う役目を担うことができると聞いた。ほんの一部にしても、実際に地域に出てこの目で見ないと気づけないことを見て、感じることもできたのである。

3. 2年生に伝えたいこと

来年の2年生に向けて伝えたいことが二つある。一つは、「学生という立場を利用して色々なことを学んでください」と言葉は違っていろいろな方によく言われる。もう一つは、「学生だからって手を抜かないでくれ」とも言われる。前者の言葉は私への期待や願いがこもっている。まだ社会に出る前の私にとって良い経験、学びになるようにも思ってもらっている。しかし、「手を抜かない」「手を抜いていると思われぬい」そうした活動をしてもらいたい。私たちにとって実習であっても、NPOの利用者にとっては関係ない。取り返しのつかない失敗をしてNPOの評価を下げるようなことはしてはいけない。でも、現実私たちは学生であり限界もある。困ったとき、どうしていいか分からなくなったときはNPOの方に聞くべきである。私たち学生は分からないこともあって当然なので、恥ずかしがらずに聞く、そして、一度聞いたことを忘れない、これを頭に入れて活動してもらいたい。最後にもう一つ一般常識を身に着けること。例えば、服装や言葉遣いである。この時考えなくてはいけないのは、自分の中の常識ではなく一般、そしてその日関わる方々の目に自分はどうか映るのかということである。人は外見じゃなく中身だが、目に映る外見が非常識に映ると正しい中身も伝わらなくなり、活動に支障が出る可能性もある。一般常識はこの先も必要で意識しなくてはいけなくなるものなのでこの機に意識してほしい。

私はNPOの活動で本当に素晴らしい体験をしたと思っている。福祉は机での学びだけでは絶対に足りない世界である。実際現場をその目で見て何を感じるか、学べるか、どんな影響を受けるかはそれぞれだが、私にとってはこの先勉強していこうと思えることのきっかけにもなった。サービスマーケティングが皆さんのよい経験になればいいと思っている。